

池田いいとこ新聞

わらじ

むかしは、みんな歩いて旅をしていました。靴はなく、わらでつくった「わらじ」というぞうりをはいていました。九十センチほどのせまい道はデコボコ。足がいたいので旅人の休けい場としてまた足が強くなるようにと、今からやぐ百年前に、地元、見延地区の人々によってまつられた社。今でも「わらじ」がぶらさげられています。また、社の近くには、わらじやというやぐうが残るお宅があります。



おがんでいるようす

昔は、くつがなくて「まっていたけどわらじ」というものをはいて昔の人はこまらずにすんだんだなと思いましたが。それに、昔はせまい道はデコボコしていて足がいたかったけどきゆうけいする場所ができてむかしの人は、たすかったんだなと思いました。なんでわらじをはくと足が強くなるのかなとぼくは、おもいます。



まつ茶をのんでいるようす



あしおうじんじやいがいにも、井風呂谷や池田神社、正満寺でいちばんおもいでにのこったのは、正満寺です。理由は、いろいろなことを教えてもらったりまつ茶をのませてもらったからです。それに東福寺は宝福寺からわかれたお寺だけど、昔から正満寺という名前なんだなとおもいました。